

## 【開催報告】1,地域貢献型特別研究（府大ACTR）

### ■2022年度ポケットセミナー（ACTR成果報告会）・大学連携に関する意見交換会

2022年9月14日に、府内自治体職員の方を対象に、ACTR成果をご報告するポケットセミナーと、大学連携に関する意見交換会をオンラインで開催しました。大学連携担当課に限らず、広く参加を募ったところ13自治体22名の参加をいただきました。

ポケットセミナーでは、生命環境科学研究科の板井章浩教授、文学部の諫早直人准教授、青山公三名誉教授より、大学の地域貢献の取り組みとしてACTRの研究成果をそれぞれご報告いただきました。その後、自治体職員と本学教員とで、大学連携について意見交換を行いました。

参加者からは「実際にACTRに取り組んでいる教員や自治体職員の説明や意見を聞いて参考になった」「普段なかなか接する機会のない、大学教員や他市町村の職員との意見交換をすることができて良かった」といった感想をいただきました。



ポケットセミナーの様子

### ■2021年度京都府立大学地域貢献型特別研究（ACTR）パネル展示



府民の皆様へ地域貢献型特別研究（ACTR）の研究成果を広く知っていただくため、2021年度の研究成果をポスターにまとめ、京都府立京都学・歴史館にて9月1日から30日までの間、パネル展示を実施し、延べ449名の方にお越しいただきました。また、パネル展示に併せて、関係図書や資料の展示、さらに、今年度は映像資料の放映も行い、ご好評いただきました。

### ■「精華キャンパスACTR（地域貢献型特別研究）成果発表」の開催

京都府立大学精華キャンパスでは、地域課題の解決に向けた研究に積極的に取り組むため、地域貢献型特別研究（ACTR）を活用されています。

精華キャンパスにおられる先生方が研究代表者である2022年度ACTRの研究成果について発表する報告会が2023年3月10日に開催されました。

報告会では「スマート農業を利用した鳥獣害軽減方法の確立と果樹栽培の高度化技術開発」や「京都府希少農産物が持つ有効成分を生かしたブランド化推進と商品開発」など計5テーマの研究について、2022年度においてどのような結果がみられたのかを発表されました。各先生方が、専門的な研究内容について、写真や図を用いてとても分かりやすく説明をされており、発表後の質疑応答では、府民の方から活発に質問がされて大変盛況な様子でした。



報告会の様子

## 2,桜楓講座の開催（生涯学習）



本学では府民・地域住民に向けて大学の「知」を広く提供するために、生涯学習講座「桜楓講座」を毎年開催しています。2020年度からオンデマンド形式での実施に取り組んだことで、幅広い世代の方にご視聴いただけるようになり、受講人数も徐々に増えています。2022年度については、以下のテーマでオンデマンド形式により配信し、延べ567名の方に受講いただきました。

- ①果物の品種改良—京都府立大学の取り組み— 生命環境科学研究科 森本 拓也講師
- ②昆虫が、植物に虫こぶを作る仕組みを解明する 生命環境科学研究科 佐藤 雅彦教授
- ③人新世の食と健康 文学部 ハイน์・マレー特別専任教授
- ④「しあわせ」になるためのコミュニケーション—相談面接からのヒント— 公共政策学部 中村 佐織教授

Kyoto Institute for Regional Prospects

KIRP

NEWS LETTER NO.30

Kyoto Institute for Regional Prospects

April 2023

### ■京都地域未来創造センター長 挨拶

「地域貢献」という本学の重要な使命を担う当センターはどうあるべきか。2020年度にセンター長に就任して以来、私が問い続けていることです。大学はただ研究するだけでなく、その成果を地域にどのように還元するのか。大学と地域をどのようにつないでいくのか。また、そうした活動を地域と一緒に考えて、発信していくことも大切です。模範解答のないこのような問いにどのように応えていくのか。いまだその解には辿り着いていませんが、その手がかりとなるのは、やはり職場仲間との日常的なコミュニケーションと多様な人的ネットワークの構築です。



川勝 健志 公共政策学部教授

当センターがユニークなのは、学内外に次々と仲間が増えてネットワークが広がっていくことです。しかもその関係が「ゆるやか」であることも特徴です。関係が強くなりすぎると個人の自由が奪われ、個人の意欲と能力が十分に引き出せなくなるからです。互いに協力し合うことで個々人の能力をより発揮できる。自発的で強固な連帯が生まれる。当センターは、そんなコミュニティでありたいと思っています。

### 【KIRP】2023年度 京都地域未来創造センター新体制

センター長	川勝 健志	公共政策学部教授	
副センター長	宮藤 久士	生命環境科学研究科教授	
統括マネージャー	上杉 和央	文学部准教授	
データサイエンスアドバイザー	岩崎 雅史	生命環境科学研究科准教授	
連携推進員（学部選出）	市村 太郎	文学部准教授	
	玉井 亮子	公共政策学部准教授	
	亀井 康富	生命環境科学研究科准教授	
	岡 真優子	生命環境科学研究科准教授	
シンクタンク（調査研究等）	企画調整マネージャー	駒寄 忠大	公共政策学部准教授
	コーディネーター/上席研究員	鈴木 暁子	
	研究員	前川 由衣	市町村研修派遣職員(精華町)
	研究員	原田 成至	市町村研修派遣職員(京田辺市)
	コミュニケーションデザイナー	永田 恵理子	

## 【受託研究・ACTR】2022年度調査報告

京都地域未来創造センターが関わった調査研究を以下の通り報告します。

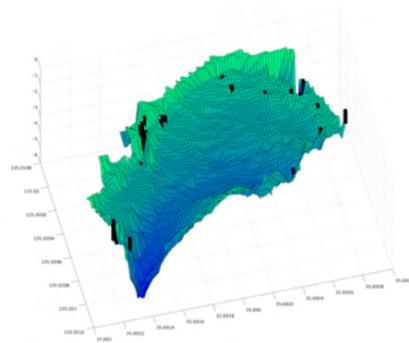
### 「京丹後の海の魅力あるブランディングに向けた海水浴場の調査・分析 およびデジタルアーカイブ化」



Instagram▶



風光明媚な蒲井浜海水浴場



八丁浜海水浴場の海底3Dマップの高精細版

八丁浜海水浴場の海底3Dマップの高精細版であり、黒の部分はシモリを表しています。京丹後市内の宿泊施設であればこのような海底3Dマップが閲覧できるような仕組みも今後考えていく予定です。

体制：岩崎雅史（生命環境科学研究科准教授）・新庄雅斗（同志社大学理工学部助教）ほか

2021年度は海水浴シーズンを除くとビーチには我々だけという状況が多かったのですが、2022年度は観光のお客さんが戻り始め、いろいろとお話する機会が増えました。その中で研究内容を充実化させるヒントになったのがシロギス釣りて箱石浜海水浴場にいられた方々との会話。子どものころの記憶が蘇り、箱石浜海水浴場は投げ釣り党には憧れの尺ギス（30cm超の大型ギス）が狙える有名スポットで、隣接の葛野浜海水浴場も全日本サーフキャストイング連盟の全国大会が開催されるなど、この一帯は投げ釣りのメッカであることを思い出しました。実際に箱石浜海水浴場のシモリ（岩礁エリア）付近では大型の生息を確認できましたが、反面、シモリから離れるとキスを目にするのが少なくなるため、シモリ付近を攻められなければよい釣果は望めません。つまり、釣り人たちは箱石浜海水浴場特有のシモリの入り組み方をきちんと頭に入れ、かつ正確にキャストする必要がありますが、データがないままこのような箱石浜海水浴場を攻略するのは相当難しいと思われます。

というわけで、2022年度は海水浴だけでなく釣りでも有用となるレベルの海底3Dマップの作成に時間をかけて取り組みました。下図は

### 「精華町次期総合計画策定支援業務」（精華町受託）

2023年度からの10年計画となる第6期精華町次期総合計画づくりの支援を行いました。2年目となる本年度は、本学生命環境科学研究科応用数学研究室（岩崎雅史准教授・本センターデータサイエンスアドバイザー）の協力を得て、精華町に関するSNS（主にTwitter）での情報収集と分析を行いました。具体的には、精華町のランドマーク（17件：けいはんなプラザ、けいはんな公園、鉄道の駅や公共施設等）の印象評価を行い、投稿者がランドマークに対してどのように感じているかをツイート内容から読み取り、数学的分析手法を用いて、5段階で数値化し、現状把握を行いました。データサイエンスの急速な発展により、自治体の政策づくりにおいて、エビデンスに基づく思考や将来予測の重要性が高まっているなかで、双方型の広報公聴活動や統計思考による政策づくりや基礎データとしての活用が期待されます。

体制：川勝健志（公共政策学部教授）、岩崎雅史（生命環境科学研究科准教授）、武内奎太（生命MI）ほか



報告書



ワークショップの様子

### 「京田辺市「住民協働型まちづくり協議会」の在り方提案」（府大ACTR）

「自治会等」を補完する役割として「まちづくり協議会」の設立が全国的に進んでいます。しかしながら運営上の課題は多く存在し、なかでも「人材不足」に関する懸念は大きいものがあります。京田辺市においても今後「まちづくり協議会」を展開していく予定となりますが、「人材不足」をどうするかについては、避けては通れない論点となると考えられます。

そこで、京田辺市において地域人材が存在するのか実態調査で明らかにした上で、まちづくり協議会において地域人材が有効に活用されるためにはどうすればいいか提言することを目的とし、研究活動を行いました。

調査方法として①18歳以上の市民2,000人を対象とした市民アンケート調査②三山木地区の区長・自治会長11名を対象としたヒアリング調査③先進自治体である三重県名張市・兵庫県宝塚市を対象にヒアリング調査を実施しました。

そしてこれらを踏まえ、調査報告書「京田辺市の地域の人材活用から見るまちづくり協議会の可能性～区・自治会の実態調査などを踏まえて～」を作成しました。

体制：今堀誠弥（研究員）、駒寄忠大（公共政策学部准教授）、川勝健志（公共政策学部教授）、前川由衣（研究員）ほか



報告書



ヒアリングの様子

### 「文化的景観の価値を活かした地域づくり」研究会の報告（科研費）

これからの地域づくりでは、歴史や文化、生業や景観といった地域固有の要素を見つけ、いままで埋もれていた視点を再発見し地域のものさしをつくるプロセスがますます重要になります。本研究では、文化的景観の考え方に基づき、国の重要文化的景観に選定された地域がどのような地域づくりを行ってきたのかについて比較検討しています。研究の3年目となる2023年度は、重要文化的景観に選定された地域の取り組みについて議論をする研究会（月1回）に加え、選定期間による進捗の違いを検証するため、愛媛県西予市および松野町、長崎県五島市（福江島・久賀島・奈留島）、沖縄県今帰仁村を訪問し、自治体や地域づくり実践者への聞き取り、現地での調査を行いました。次年度も引き続き、文化的景観の価値とそれを活かした地域づくりを有機的に連動させる「価値論（評価）×計画論（持続）」のモデルづくりに向けて基礎的研究を行います。

研究代表者：上杉和央 准教授（文学部歴史学科）、奥谷三穂（文学部共同研究員）、鈴木暁子（センターコーディネーター）、今堀誠弥（研究員）、前川由衣（研究員）



「五島列島における瀬戸を介した久賀島及び奈留島の集落景観」（久賀島）



「奥内の棚田及び農山村景観」（愛媛県松野町）



「宇治の文化的景観」